

旅立ちの言葉

桜の蕾も膨らみを増し、暖かな春の訪れを感じる季節となっていました。今日の良や田に、僕たちは旅立ちの日を迎えます。

三年前の四田。中学校という新しさ舞いに対するワクワクと、環境の変化に伴う不安が入り混じった気持いで入学式の日を迎えました。まだ十分に着こなせてこなとは言えない、真新しい制服姿に恥じらいを感じながらも、胸にこゝぼの期待を抱えて、この旭丘中学校の門をくぐりました。知らない名前がたくさん並ぶクラス発表。「どんな子だろう。」「友達になりたいな。」そんな思ひとは裏腹に緊張してなかなか話しかけられませんでした。初めは声をかけるきっかけを模索するのにこひれこひれでしたが、気が付けば話せるようになっていたし、一緒にいれる人が増えました。ひとつて新たな生活でも、仲間ができました。

一年生の秋。初めて自分たちだけで行つた京都巡り。この校外学習で僕たちは失敗してしまつたことがありました。そのとき、先生方が厳しく叱つてすぐたかひ、「自分たちで直してこい。」そんな雰囲気が生まれました。そして、一致団結して、委員会の活動などに取り組んだことで、全年全体に少しずつ変化が見られました。

一年生になると初めて後輩という存在ができる、改めて責任を自覚しました。日々の学校生活や部活動、生徒会でも先輩に頼るのではなく

く、自らも先輩として中心になり、旭丘中学校の原動力になれるよう取り組みました。先輩の引退後、自分たちだけの部活動では、しぶといときやつましくいかない」ともありました。でも、励ましてくれる仲間がいてくれたからこそ一緒に頑張れたし、競い合えたのだと思います。

三年生になつてこつた沖縄への宿泊学習。ホームステイ先のおじい、おばあは僕たちをいろんな場所に連れて行き、美味しい沖縄料理を振舞つてくださいました。まるで本当の家族のような人の優しさに触れぬじがでりました。一方で、戦争の悲惨な現実が残る沖縄も同時に学びました。戦争についての事前学習で、僕はわかつてこぬつもりでした。しかし、実際に体感したガマの暗さと狭さ。人々の苦しみやその中で必死に生きようとする姿が感じ取れました。平和学習をした僕たちにとって大切なことは、生きてこられた人に感謝して大事に毎日を過ごすことです。学んだことを戦争を知らない人たちに伝える」とだと強く思いました。

三年生の文化祭。全ての行事に「中学校生活最後の」という言葉がついてしまつとの寂しさを覚えつつ、だからこそ一生懸命に取り組みました。

合唱コンクール。どのクラスももちろん目標は金賞。それぞれに強い思いがあつたから、仲間とぶつかり合つともありました。でも、最後は協力し、一つの合唱曲をつべつあげました。

体育祭。印象的なのは、学年種田のアラカルトリレー。一年生のときと比べて圧倒的に増した迫力。クラスみんなでつなぐ檻にのつた思いを感じながら走りました。また、競技だけでなく、応援でも三学年が一つになつて声を出し、楽しさ盛り上げる」ことができました。そして、舞台・展示の部。学年全体が携わり、完成させた一つのステージ・作品。一人でも欠ければ、成しえなかつたこと。仲間と協力し合ひ、完成させたときの達成感は人一倍大きかつた。誰かに任せるのでなく、自分も一緒に頑張ったから」」や、感じられたものだと思ひます。

「一年生の時は「行事が楽しい。」単純にそう感じていました。けれど、二年生では、結果がどういうだけでなく、その過程も大切な思い出であると気付けました。本気で取り組んだから」」その悔し涙。学年が一つの糸でつながつたように感じて流したうれし涙。一年生のとが憧れていた三年生の姿に少しあは近づけたように感じます。

三年間を通して、人それぞれの価値観の違いを知り、自分の弱さや強さを「認める」大切さや難しさも学びました。自分の弱さは周りにいる誰かの強さが補つてくれる。誰かの弱さを自分の強さでカバーする。自分も少しは成長できたのかなと思います。でも、そこには、自分以外の大切な存在がたくさんありました。

まず、在校生のみなさん。及ばないと」」うもたくさんあつた僕たち

にっこり笑ってくれてありがと。けれど、「これからみんなで」の旭丘中学校をより素晴らしい学校へと発展させてください。みんなでならではます。仲間を大切にかけがえのない時間を樂しみでください。

次に、三年間お世話になった先生方。僕たちが失敗したら叱つてくれた先生。僕たちがうまくいったら一緒に喜んでくれた先生。悩んでこのときには自分の「」のよひに親身になつて話を聞いてくれた先生。そんな先生方のおかげで僕たちは僕たちがじく成長する「」ができるました。ありがとうございました。

そして、三年生のみんな。しへどことせ、ベンチをうなとせ手をせしのべてくれた友達。バカな「」をして、一緒に大笑いした友達。「あいつには負けたくない。」やつやつて競い合ひ、助け合つた友達。仲間がいたから頑張れた。仲間がいたから楽しかつた。「」の仲間だったから素の自分でいることができた。

「君と僕の大切な絆いつまでも切れないよう」ずっとずっと守り抜いて、心の中で紡いでいく消える「」ではない、いつまでも

最強のスクラムでつづつあげた「」の絆を決して忘れません。僕は「」の学年のみんなが大好きです。本当にありがとうございます。

最後に、僕たちがどんな状態であつても、いつも味方でいてくれた家族。勉強に集中できる環境を整えてくれたり、進路という大きな決断のときにも「自分の進みたい道を選びなさい」と優しく背中を押して

くれたね。支えてくれてありがとつ。そして、これからもよろしくお願いします。

今回、自分たちの力ではどうないけれどもできない事態によりて、僕たちの学校生活は少し短くなってしまった。正直、動搖もした。けれど、僕はみんなと過ごす一日一日の価値の大ささを改めて実感することができた。いろんな事態になつたからJN、毎日を本当の意味で大切にできた。いつも思っています。いつでも、みんなで卒業式ができるように、心から幸せを感じるのもいい、感謝したこと思います。

今日、Jの学校に別れを告げ、僕たちはそれぞれの道に歩み出します。Jの制服に袖を脱ぐのもなくなります。けれど、旭丘中学校で共に過ごした三年間の思い出が消えないことは決してありません。心の中にはいつも大好きみんながいる。たとえ答えがなかったとしても、自分がけの正解を探しに、未来へいざ踏み出せつ。よーい、はじめ。

令和二年三月十三日 卒業生代表

